

平成24年度文化庁日本語教育大会

能代における日本語教育
体制整備に向けた取組
—生活者としての自立支援—

のしろ日本語学習会
代表 北川 裕子
acnn@shirakami.or.jp

能代の取組

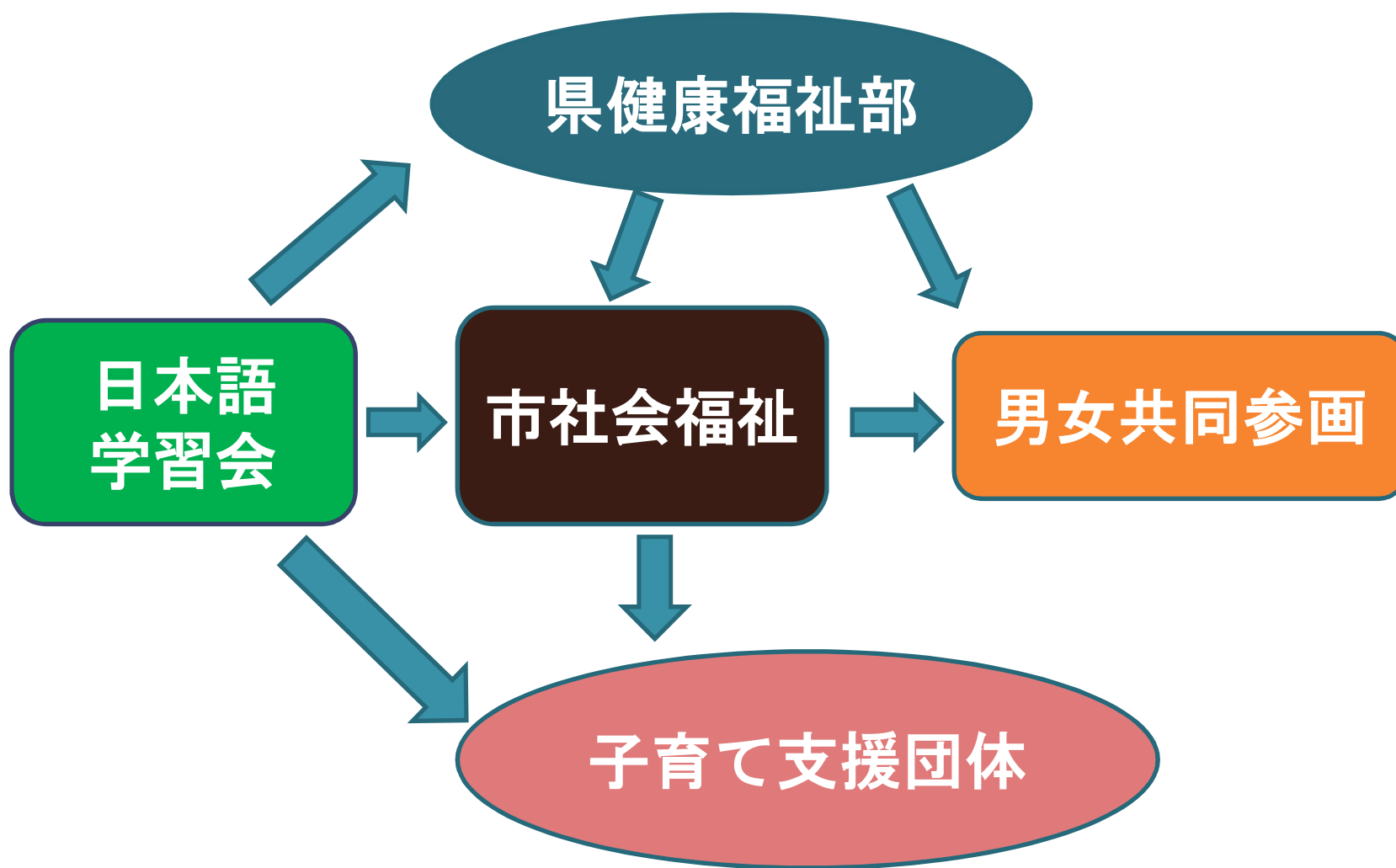
平成14年度文化庁委託事業「親子参加型の日本語教室」

●外国籍住民への子育て支援

目的

- 1 母語が日本語ではない母親の子育てが、
子どもの言語習得に及ぼす影響は大きい。
- 2 家族や日本語支援者だけでは根本的解決
が難しい。
- 3 子育て支援は次世代を担う人材育成であり、
外国人の社会参加やエンパワメントである。

支援の図式



実践活動①

男女共同参画宣言都市記念式典参加

- ・ 基本計画第8分野「外国人であることに加え、女性であることで複合的に困難な状況におかれている人々への支援

県婚活支援センターのテレビ取材

- ・ 外国籍のお嫁さんが日本語を学ぶ姿をテレビ放映

子育て支援ネットワーク会議に参加

- ・ 幼稚園。保育所関係者との情報交換

実践活動②

読み聞かせボランティアとの交流

- ・ 教室で絵本の読み聞かせ

秋田県男女共同参画課発行の冊子に日本語教室紹介

託児ボランティア

- ・ 昼と夜の教室に配置

能代市防災計画報告会に参加

- ・ 8月の防災訓練に参加

乳幼児期の言語発達についての講演会

- ・ 各方面に人たちへの啓蒙活動

●私たちの最終目標

過疎化・少子化の重要な鍵・・・

●地方に及ぶ国際化

●子育て支援の在り方を話し合える
まちづくり

●意見を言える外国籍住民を育てる
日本語教室

コーディネーター研修を受けて・・・本年度は

平成24年度生活者事業 地域日本語教育実践プログラムB

● **学校・教育委員会**への啓蒙講座
外国にルーツを持つ子供の学習支援とは

● **行政担当窓口**への啓蒙講座
多文化共生社会における相談窓口の役割

● **日本語教室・支援者**の啓蒙講座
日本語教室の役割と連携推進の意義



能代の 地域日本語教育コーディネーター として考える「地域の課題」